

瑞浪，幌延の第1段階(地上からの調査研究段階)の成果を取りまとめ，平成18年度中に報告書として公表する。

< 目的・位置づけ >

- ・調査研究の達成度と今後の課題の明確化
- ・第2段階以降の調査研究の方向性の具体化
- ・地層処分技術に係る知識基盤としての整備・体系化
- ・処分事業における概要調査及び精密調査への反映
- ・安全規制に係る指針類の整備への活用

< 取りまとめの要件 >

- ・第1段階の目標(， 等)に対して，成果と課題が適切にまとめられていること
地上からの調査研究による地質環境モデルの構築，および坑道掘削前の深部地質環境の状態の把握
地下施設(研究坑道)の詳細設計および施工計画の策定
- ・第2段階以降の調査研究の課題(モデルの検証方法等)が示されていること
- ・第1段階で取得したデータ，一連の調査・解析・評価の方法論および知見(ノウハウや失敗例を含む)が整備されていること

1

< 瑞浪，幌延の特徴に応じた取りまとめ >

瑞浪と幌延では，社会的制約などにより，調査研究の進め方が異なっている。
(ただし，調査研究を進める上での考え方や調査研究の基本的な内容は，双方とも同じ)
幌延では「地層処分研究開発」も合わせて実施している。
(瑞浪は「深地層の科学的研究」のみ)

	超深地層研究所計画 (瑞浪超深地層研究所)	幌延深地層研究計画 (幌延深地層研究所)
場所	瑞浪市の市有地を賃貸借 (given)	幌延町内から段階的に選定(selection)
プロセス・ アプローチ	調査研究開始当初より，研究用地(約7.5ha)を含むサイトスケール(約2km四方)での調査	町内に研究所設置候補4区域を設定 ↓ うち2区域を選定し調査 ↓ 研究所設置地区(約3km四方)を選定 ↓ 研究用地(約19ha)を取得
	同一範囲(サイトスケール)での調査ステップ(繰り返しアプローチ) ----- 広域地下水流動研究(約10km四方)を別途実施	研究所設置地区において主たる調査研究を展開

2

< 取りまとめ報告書の内容 >

H17取りまとめをベースとして、その後に得られた成果と合わせて包括的に取りまとめる。

< 目次案(大項目のみ) >

超深地層研究所計画(瑞浪)

1. 超深地層研究所計画の概要
2. 超深地層研究所計画・第1段階調査研究の概要
3. 深部地質環境の調査・解析・評価技術の基盤の整備
4. 深地層における工学技術の基盤の整備

幌延深地層研究計画

「深地層の科学的研究」(分冊)

1. 幌延深地層研究計画の概要
2. 幌延深地層研究計画・第1段階調査研究の概要
3. 研究所設置地区および研究所設置場所の選定
4. 研究所設置地区およびその周辺における地上からの調査研究
5. 深地層における工学技術の基礎の開発
6. 地下施設建設に伴う周辺環境への影響調査

「地層処分研究開発」(分冊)

1. 処分技術の信頼性向上
2. 安全評価手法の高度化 - 安全評価手法の適用性確認

< 取りまとめのスケジュール >

- ・ ~ 9月まで: 第1ドラフト作成
- ・ 10月~11月: 社内におけるレビュー
- ・ 11月~12月: 第1ドラフト修正 / 第2ドラフト作成
- ・ 1月~ 2月: 国内専門家によるレビュー (URL検討委員会等に依頼)
- ・ 2月~ 3月: 最終版完成 / 印刷・公開

< 取りまとめ体制 >

	超深地層研究所計画(瑞浪)	幌延深地層研究計画
作成者名	東濃地科学研究ユニット, 東濃地科学センターの連名	幌延深地層研究ユニット, 地層処分基盤研究開発ユニット, 幌延深地層研究センターの連名
責任者	東濃地科学研究ユニット長	幌延深地層研究ユニット長 地層処分基盤研究開発ユニット長(分冊「地層処分研究開発」)
作業実施 / 調整	結晶質岩地質環境研究グループ 結晶質岩工学技術開発グループ 施設建設課	堆積岩地質環境研究グループ, 堆積岩工学技術開発グループ, 施設建設課, システム性能研究グループ, 核種移行研究グループ, ニアフィールド研究グループ